



祐介の目

No.51

大田ゆうすけ
(福山市議会議員)

毎月1日号に掲載

「ツ熱の高まりは東京オリンピックに向けて着実に盛り上がりつつある」と言える。この盛り上がりをもつめるのか、鉄は熱いうちに打てと言っではないか。例えば群馬県高崎市は日本オリンピック委員会(JOC)とパートナー都市協定を結び、オリンピック・ムーブメントの推進を街づくりの核として、「スポーツで高崎を変える」というスポーツ推進政策を立ち上げている。9月には前述のスポーツ振興議員連盟のメンバーも高崎市の取り組みを視察したところであり、福山市も参考にしたいとは一同思いを強くした。

東京オリンピックに向けて

今年の7月、超党派の福山市議会スポーツ振興議員連盟(稲葉誠一郎会長)が発足した。各会派から幹事を出し、私が幹事長となった。早速、様々な団体から声がかかり、市民球団やプロサッカーチームを作りたいので支援してほしいという要請が来ている。

さて、来年2月21日に開催される第35回ふくやまマラソンにて念願の「鞆の浦コース」が実現し、5000人市民優先枠がわずか3日で定員となった事はうれしい限りである。この鞆の浦コース実現の立役者は11月に開催された「鞆の浦駅伝」であり、鞆・高島・水呑の3学区の住民が協力した結果実現した。駅伝・マラソンと続くことにより、県道22号線(鞆街道)沿線に多くの人が訪れるだろう。この現象をスポーツツーリズムといっている。

このような福山市民のスポ

また、各国の代表チームを事前合宿に招致するために競技施設を整備しているまちも多数ある。福山市も国内屈指の芦田川漕艇場を有し、オリンピックに間に合うように競馬場跡地に総合体育館を建設する。さらに、オリンピック開催直前の華といえば聖火リレーだろう。前回の東京オリンピックでは、聖火は広島から二次を経由して山陰に抜け、福山は素通りという苦い経験がある。じつは「わがまちに聖火を」という運動はすでに各地で始まっている。他にもオリンピックに向けてどんな手が打てるか、考えるだけでもワクワクする。